

すべてのいじめに最善の対策を

S.N<社②ゼミ>

1. はじめに

現在、いじめの件数は増え続けており、正しい教員の対応が求められている。各県にマニュアルはあるものの、県によって内容にばらつきがあり、全国で統一されたマニュアルは存在しない。また、生徒の声が載っているマニュアルも、教員からの要望があるのにもかかわらず、存在しない。この探Qでは、その現状を打開するべく、情報量が多く、ほかの県のマニュアルと比べてより実践的な兵庫県のマニュアルを基に、生徒の声を記載したマニュアルを作る。

2. 実施したこと

□2-1

この探Qでは、生徒のいじめに対する考え方を記載することや、いじめの対応に関する基本的な情報からそれぞれの立場に向けての対処法まで、詳しくまとめた要覧を作ること、教師がいじめ問題に対して容易に、そして適切に処理できるということを目的として設定した。

□2-2

この探Qでは、以下の四つのことを実施した。

1. いじめについて
2. 竹園高校の教員に対するアンケート
3. 講演会を開く
4. 要覧作り

1. いじめについて

自ら要覧を作るからには既存のマニュアルを把握することが重要だと考えたため、調査した。この活動においての目的は既存のマニュアルから改善点を施策し、自分がつくる要覧の方向性を決定することである。調べた既存のマニュアルは5つ。

ア) 茨城県のマニュアル、イ) 東京都、ウ) 兵庫県、エ) 和歌山県、オ) 文部科学省である。また、その5つのマニュアルを〈a〉発行年数（客観）、〈b〉長さ（客観）、〈c〉図、色使い（主観）、〈d〉チェックリストの有無（客観）、〈e〉情報の多さ（主観）、〈f〉実用的であるか（主観）という観点より評価した。結果は以下の通りである。

ア) 茨城県のマニュアル

- 〈a〉令和2年
- 〈b〉27ページ
- 〈c〉図が見にくい、色使いが統一されておらず、奇抜

- 〈d〉無し
- 〈e〉法律に関する情報が多い

- 〈f〉法律上の裁き方は記載されているが、日常的な発言や行動などに向けて具体的な対応が書かれていないため、このマニュアルのみで実践するのは難しいと考えた

イ) 東京都のマニュアル

- 〈a〉平成29年
- 〈b〉上巻 その13まで
下巻 その20まで
(ひとつにつき8ページほどの分量)

- 〈c〉新たな観点からの図。色使いは見にくい、図の構成が見やすいかわかりやすい

- 〈d〉有り
- 〈e〉マニュアルが長い分、日常的に使える知識から法的な措置まで記載されている。

- 〈f〉情報が多く、整理されているため使いやすい。

ウ) 兵庫県のマニュアル

- 〈a〉平成29年
- 〈b〉32ページ
- 〈c〉図は無い。色使いが統一されていて見やすい。
- 〈d〉有り
- 〈e〉法的な措置と言うよりは実践的な内容が多い。

- 〈f〉情報がスッキリしていて見やすいし、実践しやすい情報が多い

エ) 和歌山県のマニュアル

- 〈a〉令和3年
- 〈b〉16ページ
- 〈c〉図は無い。色使いが統一されていて見やすい。
- 〈d〉有り
- 〈e〉メンタルケアの情報がほかの県のマニュアルより充実している。実践的な内容が多い。

結果を踏まえた考察として、兵庫県、東京都のマニュアルが高い評価となった。しかし東京都のマニュアルはページ数が多いため、兵庫県のマニュアルを土台に、東京都のマニュアルを中心に追加するという方法で要覧を作ることにする。

2. 竹園高校の教師にアンケートをとる

私の探Qでの目的は、教師が使えるいじめの対応要覧を作成することであるため、教師が使いやすい要覧というものについての調査が必要だと考えた。そのため、竹園高校の先生方に使いやすいマニュアルについてのアンケートを実施した。

アンケートの内容は以下の通りだ。

- a) 教師が行ういじめの対策の内容
- b) 兵庫県のマニュアルを読んだの利点
- c) 兵庫県のマニュアルを読んだの改善点
- d) 兵庫県のマニュアルを読んで、足りないと思ったところ
- e) 茨城県のマニュアルを読んだの利点
- f) 茨城県のマニュアルを読んだの改善点
- g) 茨城県のマニュアルを読んで、足りないと思ったところ
- h) 先生方が使っているマニュアルや文献
- i) 影響を受けたいじめについての研究者など
- j) 要覧に載せて欲しい情報について
- k) マニュアルの長さ
- l) マニュアルの形態

この12点のうち、k、lのみ必須回答とした。

アンケートの結果として、教師の使いやすい要覧とは、「図やチェックリストがあり、色使いの見やすい、PDF形式のジャンプボタンで自分の見たいところに素早く飛べるもの」ということがわかった。

その際、教員の守秘義務により、実際に会った事例を交えた具体的な調査を行うことは出来なかったため、アンケートの内容は全て架空の件に関してである。しかし、このアンケート結果の懸念としてアンケートの回答数が6件と少なかったことが挙げられる。そのため、私のアンケートの結果の考察は偏りが見られる可能性がある。

3. 講演会の実施

要覧製作を進める上で、対処に関しては正しい知識のない私が教師に手順や方法を提示することが不可能であると考え、いじめの対策の方法を生徒目線で提案するという形にシフトした。その中で、私だけの意見では偏りが生まれると考え、対象者を全校生徒とした講演会を実施し、その参加者へ、事前・講演会中・事後にアンケートを行うことにより一般的な生徒の考えを調査した。講演会の内容は以下の通りである。

① 事前アンケートの実施

アンケートの内容は、「いじめをしてはいけない理由」である。

② いじめの定義を提示する

定義を提示する前に、一般的に生徒がどの程度正確にいじめという事象を捉えているかを把握するために、「どうなったらいじめとなるか」というアンケートに答えてもらい、その後参加生徒同士で少し話し合ってもらった。いじめの定義では、生徒がいじめられたと感じた時点でいじめと認定されてしまうという事実を伝えることにより、いじめてるつもりが加害者の生徒にない場合のいじめの抑制を図った。

③ 加害者の生徒がいじめ問題が教師により解決した場合、その後どうなるのかを教える

加害者の生徒がいじめ問題の後、どのような生活を送るかは小中学校の道徳の授業では触れられず、生徒の中でも憶測でしか知識がないと考え、このテーマを生徒に話し合ってもらった。また、この情報を伝えることにより、加害者の生徒の予備生徒が、被害者の生徒という他人が受けるダメージを考えていじめをしなくなるということより、自分が受けるかもしれないダメージを考えることによりいじめをする前に踏みとどまるのでは無いかという推測の元、いじめの抑制を図った。

④ 事後アンケートの実施

アンケートの内容は、事前アンケートと同一で、「いじめをしてはいけない理由」を答えてもらい、生徒の思考の変化を調査した。またそれに加え、「いじめの定義、いじめの加害者の生徒の受けるダメージを生徒に教えることはいじめの件数減少に繋がるか、また何故か」にも答えてもらった。

この講演会を通したアンケートの結果では、私の推測とほぼ同じ結果が出た。まず、生徒のいじめに対する思考を問うた、「いじめをしては行けない理由」の質問に対し、講演会前と後で異なる結果となった。講演会前では、「被害者が傷つくから」という意見、つまり被害者主体の理由からいじめをしてはいけないという回答を全員の生徒がした。しかし講演会後では、「被害者が傷つくから」に加え、「加害者にもダメージがあるから」、「いじめをしたことで誰にも利点がないから」という意見、つまり加害者主体の理由も含めた回答をした人が90%という結果になった。つまり、90%の生徒が被害者主体の理由から被害者加害者両者主体の理由に考えを変えたことになる。また、70%の生徒が「いじめの定義、いじめの加害

者の生徒の受けるダメージを生徒に教えることはいじめの件数減少に繋がるか、また何故か」という質問に対して「いじめの件数減少に繋がる」と回答した。

つまり、「いじめの定義」、「いじめの加害者の生徒の受けるダメージ」を生徒に教えることは、生徒のいじめに対する考え方を変えることができる。そして、加害者もダメージを受けたくないという心理のためいじめをする前に躊躇するということからいじめの件数減少に繋がると考察した。

4. 要覧づくり

先述したように、いじめ要覧に載せる内容は、兵庫県、東京都から主に引用したいじめの対処の方法や法律を記載し、加えていじめの定義、いじめの加害者の生徒の受けるダメージを講演会やアンケートの様子をもとに挿入する。

4. 今後の展望

将来教師になりたいこともあり、いじめという問題については付き合っていく問題である。今回探Qで得た情報を有効に活用して、いじめの件数減少をめざしていきたいと考える。

参考文献

茨城県の重大事態対応マニュアル

<https://kvoiku.pref.ibaraki.jp/wp-content/uploads/2023/02/jvudaijitaiM.pdf>

兵庫県いじめ対応マニュアル

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/ijimetaiou/manyuaru2908.pdf>

東京都 いじめ防止等の対策

https://www.kvoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/bullying_measures.html

和歌山県いじめ問題 対応マニュアル

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/501200/counterrd/fil/ijimetaioumanyuaru.pdf>